

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100418		
法人名	株式会社 あしのメディカル		
事業所名	グループホーム和喜あいあい(ユニットB)		
所在地	釧路市星が浦大通3丁目9番29号		
自己評価作成日	平成 29 年12月20日	評価結果市町村受理日	平成 30 年4 月6 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194100418-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194100418-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の想いを大切にしています。会話の中から御本人の希望を聞き御家族と協力し出来る限り叶えられる様支援しています。体調不良時には協力医療機関が隣に有る為、対応が早い事も利点として有ります。季節の行事を楽しむ機会を持ち利用者と御家族様が触れ合える場を提供出来る様に努力しています。

生活歴を大切にシペットとの同居も可能となっています。  
平屋建ての為、気軽に外に出られる利点があり、温かい季節は外行事も盛んに行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを意識した理念を作り上げている。理念を作る際には管理者、職員と話し合いの場を設け、その話し合いを基に理念を作り上げた。前年度の外部評価で地域密着を意識した理念づくりを目標として挙げており実施した。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に外出の機会を設けており、顔なじみの関係が出来てきている。町内会の行事などに参加する事で関係性も親密となっているが行事以外では会う機会も少なく日常的とは言えない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内では地域の方に認知症への理解、グループホームへの理解を得られる様に働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で相談、報告した事例について各参加者からご意見を頂く機会が多く有り、サービスの質の向上に活かしている。実績として町内の皆様からのアドバイスを活かし避難時のスロープ購入などに繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所にはサービス提供をする上での困難事例や制度の確認などで定期的に連絡を取り合っており、馴染みの関係が出来、解らない部分は一緒に考えてくれる事も有る。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルが有り、全職員がそれについての理解を持ちサービスに活かしている。また勉強会、研修参加の機会も作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルが有り、全職員がそれについての理解を持ちサービスに活かしている。また勉強会、研修参加の機会も作っている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、計画作成者が主となっている為、介護職員が関わる機会が少ない。また介護職員からも学びの機会、関わる機会がないとの意見も上がっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき御家族が理解しやすいように伝えている。また不安を感じる場合は契約後でも随時対応させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、御家族の声は何よりも大切にしている。また利用者と職員との関係性を良好にし不満などを伝えられる環境作りに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の声も大切にしている。全ての要望を叶えられる訳ではないが、各職員の想い、意見は大切な事、またそれを発信できる環境が大切な事だと考えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が就業環境などの整備を行い必要に応じ代表に報告する状況、各職員想いは様々と思われるが、開設時から退職者がいない事で一定の環境は整っていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	概ね管理者が調整している。外部研修参加の機会を少しずつ作っているが、当ホームでは働きながらスキルアップを行う場合が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム、小規模多機能施設と話し合いの機会を設けておりホームで抱える問題を相談し合える関係性が出来ている。また運営推進会議も年に一回合同で行う、地域行事にも一緒に参加するなど互いに良い刺激を得られている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との関係性を高める為、コミュニケーションを多く図り良好な関係作りに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初には家族との連絡頻度も多く本人の状態を伝え家族からの要望にも対応出来る様、細かな配慮、情報収集を大切にさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施している。 家族、御本人との面談の際には雰囲気作りを大切にし何でも相談してくれる様に配慮している。ホーム入居対象外の場合でも他のサービスを説明し紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を主体とし行事内容や食事メニューの決定も行っている。買物では実際に利用者に食材を選んでいただき調理して貰う事も多く互いに支え合う関係性が出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り一緒に支援する事を目標とし家族にも協力して頂ける様に声掛け実施している。行事には出来る限り参加して頂き、日々の面会時には一緒に食事出来る様に誘う等、対応の幅を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が望む限り行きたい場所、会いたい人に会える環境作りは徹底している。今までも会いたい人に会える支援、馴染みの場所に行ける支援は細目に行わさせて頂いてきた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性、性格、相性を把握し利用者間の関係作りに反映させている。共同生活の中、気の合う仲間ばかりではない為、本人が心地良く過ごせる相手と安心して生活できる環境作りに務めている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り対応しているが、今までそのようなケースはなく今後そういった機会があった場合、継続的な関わり、支援を大切にして行きたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほぼ毎日、検討し実施している。暮らしの希望はその日の気分によっても変化してくることが有る為、柔軟に対応出来る様にしている。困難な場面でも試行錯誤し本人の喜びに繋げられる様、支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や周囲の方からも様々な情報が集められる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は把握できている。心身状態、残存機能については一部の職員は理解に乏しい様子が感じられる。今後の課題として設定しその人への理解度を上げて行きたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、意見交換を行いプランに反映させているが具体的な言葉で作る事が出来ていない。家族、職員の意見を反映させられるプラン作りを課題としていく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援専門員が現場の仕事に入る事が多い為、自然と介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施している。 時間に縛られず利用者個人の希望を基に支援させて頂いている。入浴、食事などの時間も本人の希望、生活スタイルに合わせてたり出来る限りの対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に有る配食サービスの提供を受けている(朝食のみ)町内会行事には利用者と共に参加している(盆踊り、町内一斉清掃など)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人、御家族の意向を大切に今まで利用してきた病院などを利用できるように支援している。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護が入り利用者の体調管理をしてきている。また特変時、介護職員が不安を感じる時にもいつでも相談に乗ってくれ対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時には1週間程度で病院側にアプローチしている。その際に治療の進行状況を伺い家族と相談し早期退院に向け行動するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事、出来ない事は理解している。掛かり付け医、訪問看護と協力しながら終末期について相談できる環境は整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、連絡体制、対応方法などの基盤は有る。ただ不安を感じる職員もいる為、訓練、勉強の機会を作って行きたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は万全。家族連絡網、職員連絡網、自動通報装置による連絡体制など基盤は整っている。緊急避難先の設定も有、今後も訓練などを通し有事の際に対応出来る様、努めて行きたい。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一緒に過ごす時間が長くなるにつれ言葉使いにも馴れが出てきているのが現状。ただそれが利用者の不快にならないようにだけは注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を引き出せる様に会話を意識している。介護者が押し付ける様な声掛けはせず本人の意向、意欲を引き出せる技術を意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせて行動する事は、ほとんどない。食事の時間や入浴時間、一日の生活リズムは本人主体とさせて頂いている。ただある程度の生活リズムが保てる様な働きかけは、そつと行わせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で対応させて頂いている。洋服などの購入も本人と一緒に選び購入する事がほとんど。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日実施している。 ほぼ日課となっており、利用者側から「やるかい？」と声を上げてくれる事がほとんど。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限り意識し取り組んでいるが、個人により必要と言われる摂取量に満たない方もいる。摂れる工夫は常に行う中、現状は皆さん体調など安定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、習慣的に行う方もいれば行わない方もいる。きっかけは必ず作り清潔が保てる様、支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導、状態から尿意を読み取り誘導する事により排泄の失敗を防いでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自分達で出来る便秘対策は常に実施。 必要に応じ掛かり付け医と相談し下剤を使用する事も有るが本人の快適な排泄サイクルを目指す為に服用量なども常に相談させて貰っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は本人に決めて貰っている。入浴を苦手とする方には様々な工夫を持ち気持ち良く入浴出来る様に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して過ごせる環境を目標としており、それについての努力は常に怠らない様にしている。その為、利用者の皆さんは毎日良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を全て理解している職員は少ない。 ただ掛かり付けの調剤薬局が有り、不安に感じる事が都度相談できる体制が有る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が得意な事、活躍出来る事を大切にしている。どんな活動でも本人が自信を持って参加出来る様、環境作りに努めている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の外出の機会を必ず作っている。大きな行事も有るが、日々の外出の機会作りに重きを置いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には可能な限り支援出来る様になっているが、現在の利用者においては金銭管理する事で不安を抱く方が多く職員で管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限なく出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感は何よりも大切にしている。いつも調理などの心地良い音、臭いが有り、日差しや音などにも出来る限りの配慮を重ね、現状の空間に不快感を抱く利用者は不在。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り行わさせて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前の説明では「使い慣れた物、馴染みの物」と伝えてはいるが、御家族の事情により新たに家具などを購入されて来る事が多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どうすればご自身で安全に活動できるか？など職員間で話し合い利用者が自発的に動き出せる環境作りに力を入れている。		